

シュルレアリスムの建築の設計

—dépayséされる建築の現象物体、unheimlich な家—
An Expedition to the Surréalistic Architecture



芝浦工業大学大学院 あんびる かずき
安蒜 和希

「いいという想像力よ、私がおまえのなかでなによりも愛しているのは、おまえが容赦しないということなのだ」シュルレアリスム宣言 アンドレ・ブルトン

*序

1924年に、詩人アンドレ・ブルトンによる「シュルレアリスム宣言」によって正式に幕が開けられた『シュルレアリスム』という運動は、人々の頭に、精神に混乱と諧謔をもたらした。この思想・倫理は現代にも通ずる、人間がより自由な生を受けるための多くの可能性を秘めていると私は信じてやまない。

これはそのシュルレアリスムの精神を携えて建築の設計を試みたものである。

またこれは、良い建築を目指すのではなく、つくること、生み出すことの発想の一方法を過度に探ることを目的としている。

**シュルレアリスムとは

想像力や狂気、夢、無意識の闇の力への、驚異への信頼が、必要性に依存するすべてのもの、論理的秩序、分別なるものに対比され、優位を与えられている。

シュルレアリスムはその表現として様々な方法を生み出してきた。それぞれの表現は、結果的に“客体”の奇妙な羅列であり、日常のありえない事、しかしながら十分理解することのできる事を見せつけられることで、人々に驚異や痙攣なるものを与えられてしまうのである。

ここでは、主にルネ・マグリットが好んで使用した「デベイズマン」の方法に着目する。「デベイズマン」とは、本来の環境から別のところへ移すこと、置き換えること、本来あるべき場所にないものを会わせて異和を生じさせることである。

***シュルレアリスムを建築に

ここでひとつの問題がある。建築（建物）は絵画などとは違って、その空間表現が確固たる現実のものとして存在する。しかしながらシュルレアリスムによる表現は、そのほとんどが非現実のものである。ここで、シュルレアリスムと建築を擦り合わせるために、建築の“客体”を設定する。それは、それは柱や壁、屋根などの建築を構成しているであろう諸要素である。そしてそれには私たちが学習してしまっている現象が存在する。たとえば、「ドア」は「開くもの」であり、「その先に違う場所がある」ということを約束されているように。それら私たちの身に染みついている建築の諸要素の持つ現象をデベイズマンすることで、建築のシュルレアリスムとしようと思う。

****シュルレアリスムの建築の設計

多くの人が原記憶の最も奥底に留めているであろう建築のイメージの一つ、住宅を最終的に設計することで、シュルレアリスムの建築の設計の一回答として提示する。

その住宅は、

「シュルレアリスム。男性名詞。心の純粹な自動現象（オートマティズム）であり、それにもとづいて口述、記述、その他あらゆる方法を用いつつ、思考の実際上の働きを表現しようとする。理性によって行使されるどんな統制もなく、美学上ないし道徳上のどんな気づきからもはなれた思考の書きとり。」

「百科事典的説明。（哲）。シュルレアリスムは、それまでおろそかにされてきたある種の連想形式のすぐれた現実性や、夢の全能や、思考の無私無欲な活動などへ信頼に基礎をおく。他のあらゆる心のメカニズムを決定的に破産させ、人生の主要な諸問題の解決においてそれらにとってかわることをめざす。」

Surréalisme

認識の一方法、一種の倫理

想像力や狂気や夢、無意識の闇の力への、驚異への信頼が、
ここでは、必要性に依存するすべてのもの、
論理的秩序、分別なるものに対比され、
優位を与えられている

デベイズマン dépaysement

〈仏〉

本来の環境から別のところへ移すこと、置き換えること、本来あるべき場所にないものを会わせて異和を生じさせること。動詞ならば、「デベイズ（dépayer）」。「デ（dé）」は分離・剥奪を表す接頭語、「ペイ（pays）」は「国、故郷」ある国から引き離して他の国へ追放するというのがもとの意味。

建築であること / 住宅であること / 良い建築でなくてもよいこと / 痙攣的であること / 不可思議であること / シュルレアリスム的であること
とする。

*****建築の“客体”

ここで柱、壁、屋根、階段、戸、窓、天井、床、椅子、机、棚の11の建築の諸要素を建築の“客体”とする。それらを、不完全性を孕みつつも、皆の共通理解の道具として広く普及している広辞苑によって解釈を求める。

- 1、文章の直接的図示
- 2、同一次元で捉えるための抽象的な図形化
- 3、冗長性を保持した抽象的な数式

以上の操作を行い、建築のデベイズマンのための道具とした。

*****建築の“客体”のデベイズマン

シュルレアリスムの重要な要素である「痙攣的な美」について定義しておく。

それは、
エロティックでありながらも覆われている / 爆発的一固定的 / 魔術的一状況的なことである。

この考えを頭の隅に置きつつ、ドローイングと模型によって建築の“客体”のデベイズマンの試行を行った。結果的に34の模型として提示した。

ただしこれらは建築をアーティキュレートしているものである。

*****一般的住宅のイメージ

“住宅”として成り立たせるためにそれらの試行の中身を決定づける必要があった。

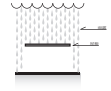
それは架空の住宅ではあるが、コモンイメージとして定着しているアニメ「クレヨンしんちゃん」の野原邸を参照することが適当だと考えた。
図面・模型として表現し、家族構成・部屋構成を引用する。

*****unheimlich な家

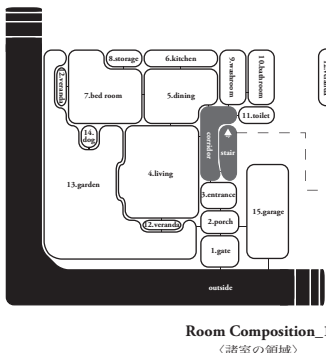
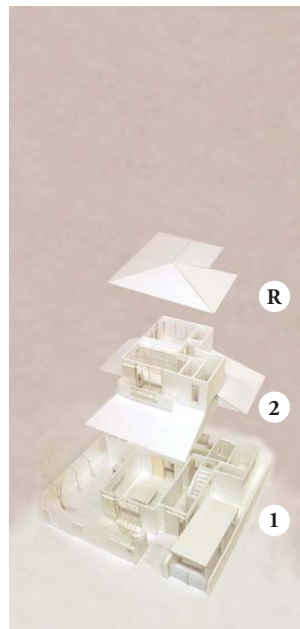
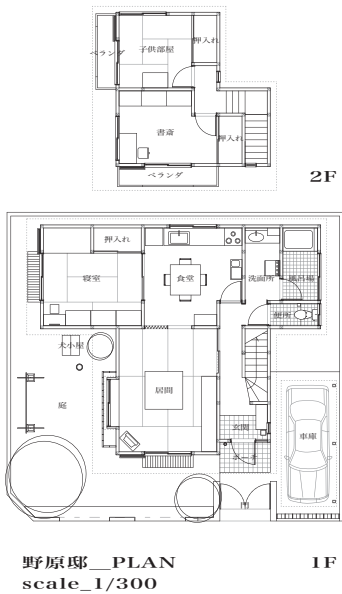
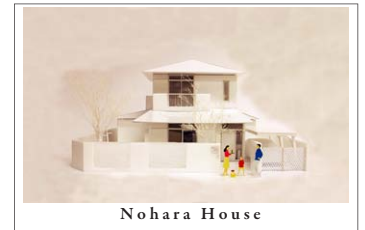
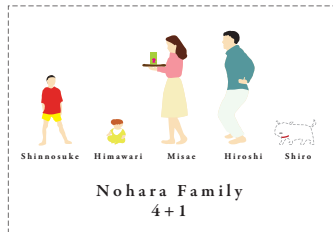
以上をもとに、住宅を設計する。

それは痙攣的で、不可思議で、身近な unheimlich な家である。

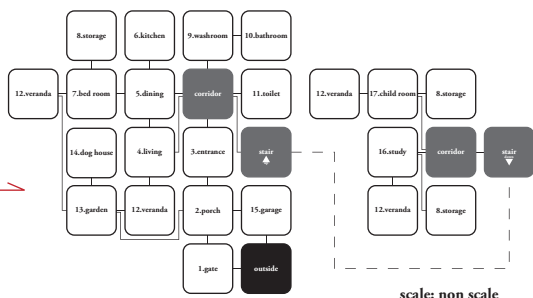
「私は、夢と現実という、外見はいかに相容れない二つの状態が、一種の絶対的現実、いってよければ一種の超現実のなかへと、いつか将来、解消されてゆくことを信じている」

1 Dictionary 2139.16 柱 (はしら)  ①直立して上の荷重を支える材。 Simple Figure  Numerical Formula  $0 \leq [Y]$	2 Dictionary 546.29 壁 (かべ)  ①家の四角を囲い、または室と室の間とするもの。 Simple Figure  Numerical Formula $[Y] [X] [Y]$	3 Dictionary 2688.31 屋根 (やね)  ①雨風などを防ぐために家屋の最上層に設けられたおおい。 Simple Figure  Numerical Formula  $\alpha \begin{matrix} [Z] \\ [X] \\ [Y] \end{matrix}$ $\alpha \text{---} \text{上から落ちてくるもの}$	4 Dictionary 441.09 階段 (かいだん)  ①段になった昇降用の通路。建物の上下の階を結ぶ段。 Simple Figure  Numerical Formula  $\begin{matrix} [Y] \\ [X] \\ [Y] \end{matrix}$	5 Dictionary 1864.46 戸 (と)  ③建具の「」。出入口・窓などに開閉できるようにとったもの。とびら。 Simple Figure  Numerical Formula $[Y] \alpha [X]$ $\alpha \text{---} \text{開閉できる}$	6 Dictionary 2520.13 窓 (まど)  ③採光または通風の目的で、壁または屋根にあけた開口部。 Simple Figure  Numerical Formula $[X] < [Y]$	7 Dictionary 1854.01 天井 (てんじょう)  ③建物の内部の最も高い所。 Simple Figure  Numerical Formula $\alpha [X] < [Y]$ $\alpha \text{---} \text{一番高い}$	8 Dictionary 2717.49 床 (ゆか)  ③建物の内部に地より高く敷きを敷く。板敷あるいは畳敷きとした所。また、板に敷かれたもの。 Simple Figure  Numerical Formula $\alpha [X] < [Y]$ $\alpha \text{---} \text{地より高い}$	9 Dictionary 141.35 椅子 (いす)  ③こしかけるための家具。脚椅子。 Simple Figure  Numerical Formula $\begin{matrix} [Y] \\ [X] \end{matrix}$	10 Dictionary 1777.12 机 (つくえ)  ③飲食の器物をのせる台。食事、勉強を助へ、字を書くのに用いる。ぶづし。 Simple Figure  Numerical Formula $\begin{matrix} [Y] \\ [X] \end{matrix}$	11 Dictionary 1663.31 棚 (たな)  ③板を平らにかけ置いて物をのせる装置。戸棚・書棚・飾棚のように移動し得るものは移動装置とする。おきくら。 Simple Figure  Numerical Formula $\begin{matrix} [Y] \\ [X] \end{matrix}$
--	--	---	---	--	---	--	--	---	--	--

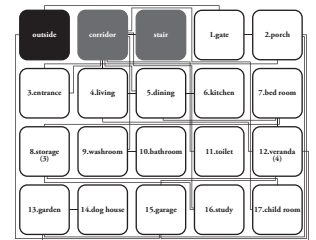
11 の建築の “ 客体 ” の広辞苑的図式化



scale:1/400



scale: non scale



scale: non scale

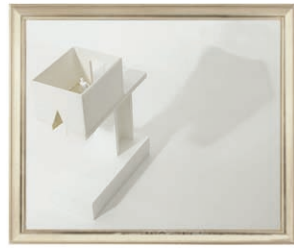
一般的住宅のイメージ = アニメ「クレヨンしんちゃんの家」



a



b



c



d



e



f



g



h



i



j



k



l



m



n



o



p



q



r



s



t



u



v



w



x



y



z



A



B



C



D



E



F



G



H

34 Models are A Study on "dépaysement" by Architectural Objects.

unheimlich

《独》無気味なもの、気味が悪い

heimlich ;
①秘密の、私の、内面の、知られない
②家庭の、馴染の、親しみのある

heimisch ;
①土着の、故郷の、自由な
②気がおけない、居心地のよい

vertraut ;
①親しい、親密な交際知せる、精通せる

の反対物
というより

「無気味なものは結局、古くから知られているもの・昔から馴染んでいるものに隠光されるところの、ある種の恐ろしいものである。」

つまり、
一度抑圧を経て、
ふたたびもどってきた「馴れ親しんだもの」

heimlich
親しみのある

unheimlich
無気味なもの

超現実

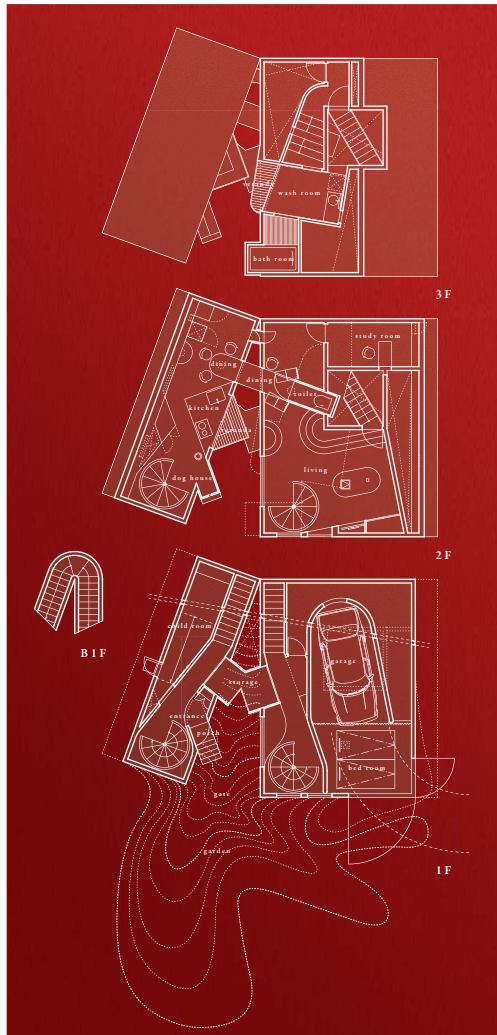
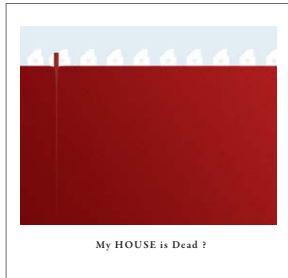
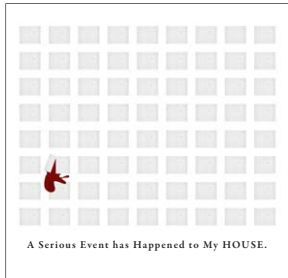
「無気味のなにかを無気味なものにする」



The House = A House



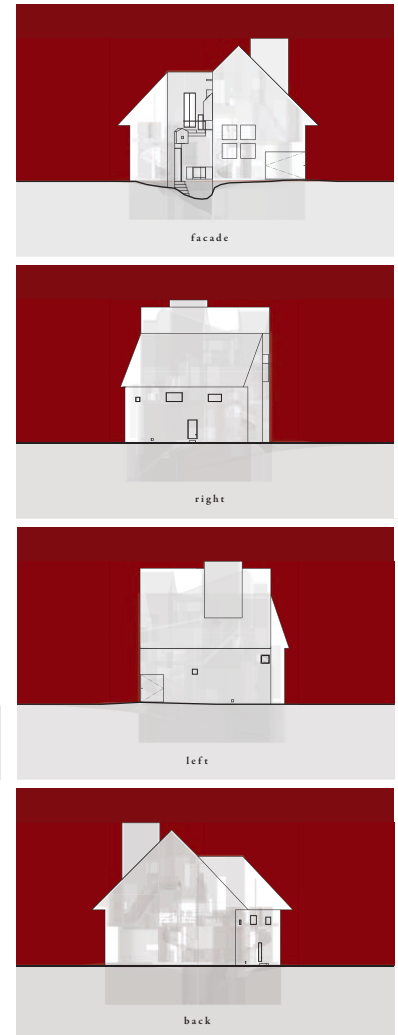
A House = The House



Plan scale_1/300



Section scale_1/300



Elevation scale_1/500